

東郷地区 地域づくり懇談会 議事録

- 1 日時 平成28年10月14日（金） 19:00～20:05
- 2 会場 東郷地区公民館
- 3 出席者 地元出席者 21名
市側出席者 15名
深澤市長、羽場副市長、河井総務部長、高橋防災調整監、田中中核市推進局長、田中企画推進部長、久野地域振興局長、国森農林水産部長、綱田都市整備部長、澤田環境下水道部長、渡邊秘書課長
＜事務局＞福島協働推進課長（司会）、岡本協働推進課課長補佐、酒本協働推進課主任、北村協働推進課主事

4 中核市移行についての説明

（中核市推進局長）※チラシに基づき説明

5 都市計画マスタープランについての説明

（都市整備部長）※チラシに基づき説明

6 市政の課題等についての意見交換（フリートーク）

（地元意見）

まずお礼を言いたいと思います。東郷地区公民館に付随している保育園が、非常に好評です。園児数は昨年まで7人でしたが、急に増加し、現在20人になっています。夏祭りを開催しても、220世帯を下回る東郷谷で、400人近い人が参加してくれます。先日、運動会を開催したところ、午前の部が予定時刻より30分程度延長しました。実施している種目は同じですが、やはり園児が増加したことが影響して時間が延長したのではないかと思います。いろいろご苦勞をかけましたが、本当にありがとうございます。

園長に尋ねると、1か月の一時預かりが70人から80人程度あるとのこと。今回も希望者が30人あったそうですが、部屋数や部屋の大きさの問題で20人に絞らざるを得なかったそうで、残念ながら10人には遠慮していただいたそうです。

もう1棟造っていただき、30人でも40人でも受け入れができれば、東郷小学校の児童数が25人と決して適正な教育環境ではないので、その中の何人かを東郷小学校に送り込むことができるのではないかと感じています。現在の保育園も、お願いしてすぐしてもらえたので、一棟造っていただき、使用できればありがたいと思います。

地区公民館の中に保育園があるのは稀なようで、文部科学省の社会教育課長がわざわざ視察に来られました。待機児童の解消にもつながるのではないかと思いますので、よろしくお願いします。

（深澤市長）

お礼とのことで大変恐縮です。引き続き、地域の皆様のご要望にできる限りお応えして

いきたいと思います。

とうごう保育園は、現在、社会福祉法人福祉会が運営しておられますので、まず福祉会とも相談する必要があるかと思えます。

昨年度、子ども子育て支援新制度がスタートしました。これは、子育て支援の質と量を確保していくということです。また、少子化の進行で全国的に子どもの総人数が減少している一方で、土曜保育や病児・病後児保育、休日保育など、保育所のニーズが多様化しているような状況もあり、それに応えていくことが必要ですし、年度当初には待機児童ゼロを目指していますが、年度中途の入園希望も年々増加しています。

このような市民の皆様のご要望に的確に応えていくため、施設の充実や、対応できる体制の整備など、いろいろな課題があります。

増築をご要望いただきました、今後の児童数の推移なども正確にデータを分析しながら対応していかなければいけませんので、今ここで増築しますという回答はなかなかできかねますが、ご要望としてしっかりと受け止め、福祉会とも相談しながら、こういった方法があるのか研究させていただきたいと思えます。

(地元意見)

とうごう保育園の園児数も増加しており、小学校も越境入学ができる学校として、いろいろな所から通学しているようです。現在、東郷小学校には25名の児童が通学しています。適正な児童数という意味では、児童数は少ないと思えますので、児童の増加策や魅力ある学校づくり、教育環境、指導内容等を新たにいろいろと検討してもらえれば、東郷小学校に行ってみたいという意見も出てくるのではないかと思えます。

(深澤市長)

鳥取市では、小・中学校それぞれが、地域の特性を活かしたり、様々な工夫をしながら、特徴と魅力ある学校づくりに努めているところです。東郷地区においても、東郷地区ならではの特性を活かした学校づくりを進めておられると考えています。東郷地区は、市街地に比較的近いという優位性もあると思えますし、何よりも自然環境に恵まれた素晴らしい地域に立地する小学校だと思えます。しかし残念ながら、鳥取市はもとより全国で少子化が進んでいますので、我々は人口減少に歯止めをかけるよう、できる限り取り組んでいかなければなりません。また、もう少し先の将来を見据え、まずは子育てがしやすい、産み育てやすいまちにしていくことにも取り組んでいかなければならないと思っています。

東郷小学校に通ってみたいと思っただけのような小学校になるよう、引き続き地域の皆様と一緒に、また、教育委員会とも一緒になって取り組んでいきたいと思っています。

(地元意見)

合併以降、鳥取市の人口は減少してきています。一昨年の地域づくり懇談会でも発言しましたが、大学等は県外に出たとしても、鳥取に戻って鳥取で仕事がしたい、鳥取で親や祖父母等と一緒に住みたいと思えるような魅力あるまち、働く場所があるまち、そういったまちづくりが、鳥取市に求められている最大の課題であり急務だと思えます。

鳥取三洋電機が今のような状況になり、経済は非常に厳しい時代です。鳥取市で物づく

りをするというのも、なかなか大変なことだと思いますので、鳥取ならではの産業育成、いわゆる箱物を作るのではなく、農業資源、観光資源、水産資源などを活かし、若い人たちが外に流出しないようにしていけば、ひょっとしたら何年か後には、逆に増加に転じることができるのではないのでしょうか。ハードばかり作っても、ソフトがなければ育ちません。市が、いろいろな事業に助成・支援をしていることもよく知っていますが、補助金等の投入が本当に実を結んでいるのか、出しっぱなし、やりっぱなしになっていないだろうかと少々危惧しています。

子育て支援として様々な支援を受けていますが、子育てをするということは産み育てるということですから、産まなければいけません。結婚するためには安定した生活がなければいけないし、そのためには安定した仕事があればいけません。求人倍率が報道されますが、本当に充実した求人なのか、日々の生活ができるだけの安定した給料をもらえる仕事なのか、将来を見据えて続けていける仕事なのか、そういうことも含めて産業の振興を考えてほしいと思います。

鳥取には田んぼがあり山があります。山の間伐材も今では運び出す方にお金がかかるため、放ったらかしになっています。今ある資源をもっと利用すること、かつ、鳥取でなければできないようなビジネスプランを作っていくこと、これらを、官公庁がただ「やってみましょう」と言うだけではなく、民間に投げかけて、民間が「やってみたいから助けてくださいよ」と言ってくるような魅力あるソフトを考えていくことが必要になってくるのではないのでしょうか。

取りとめのない話になりましたが、若者が地元にいれば活気も出ますし、消費も伸びます。懇談会の冒頭の鳥取市都市計画マスタープランの説明の中で、市の中心部に人を集めるという話がありましたが、そうではなく、自分が今住んでいる環境、田んぼ、畑、山を大切にし、それを資源にして豊かな生活づくりを進めることにより、農村部の荒廃も人口流出も防げるのではないかと考えます。

また、私もバスや自転車で通勤していますが、ステップの高いバスだと、高齢の方は乗り降りに大変苦労されています。そんな状況を見るにつけ、一度には解決できない問題ではありますが、小さいところからコツコツと改善に努めていただき、それぞれの世代がそれぞれに生きやすいまちづくりをしてほしいと考えるわけです。

(深澤市長)

多岐にわたっていますので、十分に答えられるかどうか分かりませんが、まず雇用の問題について触れられたと思います。

この数年前までは、鳥取で活躍していただける若い方が、働く所がないような状況がありました。企業誘致、地場産業の底上げ支援等に取り組んできた結果、昨今では企業進出が続いています。かつては、鳥取三洋電機が鳥取市の経済の活性化に大変貢献していただくような時代も続きました。今、鳥取あるいは日本だけでなく世界でいろいろな変化が生じてきています。家電メーカーも非常に苦戦しているような状況もあります。そういった中で、鳥取市は特に将来有望な企業を優先して誘致しようと努めてきています。食品関係、航空機、自動車、お菓子メーカー、薬品など多種多様な企業の誘致を実現してきているところです。こういった企業のいろいろな相乗効果、シナジー効果も期待されるような状況

も出てきています。現在では、反対に人材確保が課題となってきたりあります。企業も優秀な人材を確保したいとのことですので、大学等で一度は県外に転出された方でも、ぜひ鳥取に帰ってきていただきたいと思います。鳥取で活躍いただけるよう、今、経済界の皆さんや大学等教育関係の皆さんと一緒に取り組を進めているところです。鳥取にも優良企業がたくさんあるということを、我々はもっとPRしていかなければならないと思っています。

農林水産業の振興についてもお話いただきました。第1産業、農林水産業の振興は、鳥取市にとっては非常に大切だと思っていますので、引き続き取り組んでいきたいです。また、林業における間伐材の活用なども、今後また可能性がある分野ではないかと思っています。

都市計画マスタープランで、中心部に集めようとしているのではないかとありますが、立地適正化計画は、必ずしも市街地に移動していただくということではなく、今後高齢化が進み、人口の増加もなかなか期待できないと考えるならば、機能が効率的に集積したようなイメージでまちづくりを進めていくことが、これからの時代にふさわしいのではないかと思っています。

また、中心市街地はもとより中山間地域にもそれぞれの生活拠点がありますので、各地域にも、日常生活に必要な機能が集積している拠点があり、そこを中心に生活が成り立っていくようなイメージのまちづくりを進めていきたいと思っています。

公共交通等にも触れられましたが、これから高齢化が進行する中で公共交通をいかに守り維持していくのかということも大きな課題です。まずは公共交通の維持確保、そして利用しやすい状況にしていくことも必要だと思っています。

(農林水産部長)

農業は、我々が今一番力を入れていきたいと考えている分野です。東郷地区でも、多面的機能支払交付金や中山間地域等直接支払制度などの農地を守る取り組みに取り組んでいただいています。

雇用のお話もありましたが、東郷地区では北村集落と高路で農業生産法人が設立されています。私どもは、農業生産法人を中心として、地域の皆様がそこで働いていただけるような仕組みを考えてみたいと思っています。法人化、組織化していただくことが大事だと思っています。地域で法人化に向けて取り組まれるようであれば、私どもも相談をお受けしたいと思いますので、ぜひお声かけください。この他に、親元就農や青年就農給付金などの制度もありますので、就農に向けた取り組みをされる際には、相談をお受けしたいと思います。

林業についてもご指摘いただきましたが、林業も非常に厳しい状況です。市としても、間伐に力を入れており、搬出間伐については若干ではありますが助成しています。何かありましたらご相談ください。

いずれにしても、担い手を作っていくことが一番だと思っていますので、地域の皆様からも知恵をいただきながら進めていきたいと思っています。

(地区会長)

現在、神谷清掃工場撤退後として10年後の東郷地区を考えています。東郷地区が明るくなれば市にも貢献できるのではないかと、区長会や運営協議会が検討というのか、激論まで交わしています。その中で、鳥取市から案が提出されました。この案は、誰が中心でどういうメンバーが作ったのでしょうか。また、実行のための旗振りは各部長がしているのでしょうか。実行されているかどうかの判断は、例えば議会が見張り役をしているのか、役割分担を教えてください。

(深澤市長)

神谷清掃工場の運営等では大変お世話になっており、感謝申し上げます。将来を見据えてまちづくりについて東郷地区で議論されているとのことで、私たちも一緒になって、まちづくりに取り組みたいと思っています。全庁的、多岐にわたりますので、統括する必要がありますが、各部長が一週間に一度程度のペースで集まり、内部会議を開いています。そこでも情報共有は十分できていると考えていますし、まちづくりが今どのような状況にあるかといった進捗管理も、常時私も把握しているところです。時には、先頭に立って旗振りをしていく必要もありますので、今後もやっていきたいと思っておりますし、何よりも、地域の皆様と一緒にあって、将来を見据えたまちづくりにしっかり取り組みたいという思いを持っています。

(地元意見)

先ほど地区会長が発言したとおり、数人の区長が一所懸命検討しています。中身については、後日協定書という形でさせてもらおうと考えていますが、我々は自分達でできることは自分達でしなければいけない、東郷地区を活性化するため力いっぱい頑張らなければいけないという気持ちでいます。そして、どうしても我々の知恵が働かないところは市に知恵や力を貸してほしいと考えています。そういった内容で要望したいと思っています。

市長から一緒にやろうという心強い発言がありましたので、協定書の中でお願いすることについて、ぜひとも一緒になって取り組んでいただくようお願いします。

(深澤市長)

ありがとうございます。先ほども申し上げたとおり、将来を見据えた東郷地区におけるまちづくりについて、我々も一緒になって頑張っていきたいという思いでいますので、よろしくお願いします。

(地元意見)

鳥取市の2040年の将来像ということで都市計画マスタープランができています。今から24年後ということですが、例えば、若い夫婦が鳥取にやってきたい、これから結婚して子どもを作りたいという時に、24年後の将来像では短いのではないかと思います。

とにかく、親は子どもがすくすく育てて良い生活を送ってほしいと願うものです。24年後と言わず、例えば、産まれた子どもが100歳になる時の100年後の鳥取市を想像できる方がよいと思います。若い夫婦が、「将来的に鳥取市はこんな風になるのだな」と描ける未来像があった方がよいと思います。「ここは自分達の子どもの何代続いてもよい所

だ」と思える環境を市は提供します、そのためにこういうことを目指します、と私達に知らせてくれるようなプランを作ってほしいです。我々も参画できることはしたいと思っていますが、未来像を作れるのは市の方ではないかと思えます。

また、都市計画マスタープランの概要を見ると、鳥取市のことだけが掲載されています。もしかすると何年か後には、岩美郡や智頭町、若桜町といった東部圏域で一緒にやろうという時が来るかもしれないとは思っているのですが、人口減少もあるでしょうが、東部圏域でのプラン作りも必要なのかなと思えます。今後進めていく中でお願いできればと思います。

鳥取市に住みたいと思わせるような将来像を若い人に提示することで、鳥取市に人が集まってくるのではないのでしょうか。

(深澤市長)

ありがとうございました。

私も全くそのとおりだと思います。鳥取市都市計画マスタープランは概ね30年後の鳥取市としていますが、一方、創生総合戦略等で鳥取市が昨年9月30日に作成した人口推計等でも、2040年と2060年の人口の変化について一定の推計はしています。残念ながら、増加はしないだろうという計算が成り立ちます。むしろ増加に転じさせるには数十年は要するだろうと思いますが、なるべく減らさないようにして、夢と希望をもって誰もが安心して暮らしていけるまちでなければならぬ、そういったまちを目指していきたいと考えています。少し抽象的な表現になりますが、数値化したもので示していくことも大切ではないかと思えます。

ただ、100年後となると、我々が想像力を働かせたとしても、具体的にこうなるということとはなかなか予見しきれないところもありますが、何よりも、市民の皆様と私達が一緒になって、「こういうまちにしていきたい」、「こうあるべきだ」とお互いに語り合ったいを共有できるようなまちでありたいと思っています。今後も皆様と一緒に、大いに将来像を語らせていただければありがたいと思います。

また、周辺東部4町の皆さんと一緒に、連携したまちづくりを進めることが必要ではないかというご意見についても、全くそのとおりだと思います。懇談会の冒頭に中核市推進局長が説明した中核市移行も、鳥取市だけではなく周辺4町も含めた県東部圏域が、これからの存続し発展していくための一つの取り組みとご理解いただければと思います。

中核市に移行しないという選択肢も確かにありますが、鳥取市はもとより山陰東部圏域の将来を考えると、中核市移行は必要な選択だと思っています。複数自治体が圏域を構成し、お互いに協力し連携しながらまちづくりを進めて発展していく一つの仕組みを「連携都市圏」といいますが、これも具体的に進めていこうとしています。東部4町、また、県境を飛び越え兵庫県北端西部の新温泉町、香美町といった1市6町が一緒になってまちづくりを進めていこうとスタートしたところですので、将来像づくり、将来のまちづくりについては、この圏域でしっかりと取り組ませてもらいたいと思っています。

7 市長あいさつ

(深澤市長)

一言お礼のご挨拶を申し上げます。大変限られた時間でしたが、将来について本当に素晴らしいご意見、ご提言をいただきました。心から感謝申し上げます。

こういった先行きが見えないような時代だからこそ、我々は皆で一緒になって将来を切り開いていくことが求められているのではないかと、私は日頃思っています。これは、行政だけでできることではありませんので、地域の皆様、市民の皆様と一緒に考えて未来を切り拓いていくことが重要ではないかと思っています。

鳥取市には、大変素晴らしい資源や魅力がまだまだあるように思っています。我々が何気なく思っているようなところが、県外の皆さんからすると非常に素晴らしいものであったりします。そういったものが、まだまだたくさんあると思います。それらを大切にし、大いに活用しながらまちづくりを進めていけば、鳥取市の素晴らしい将来があるのではないかと常々思っています。今後も皆様と一緒に、私も自分なりに全力で取り組んでまいりたいと思っていますので、よろしく願い申し上げますとともに、熱心にご議論いただいたことに心から感謝申し上げ、お礼のご挨拶に代えさせていただきます。

本日は、本当にありがとうございました。